

AIDSネットワーク横浜 ニュースレター

発行：特定非営利活動法人 AIDSネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町 3-39 尾上町ビル 9 F

TEL: 045-201-8808 fax: 045-201-8809

ホームページ <http://www.netpro.ne.jp/any/>

e-mail: any@netpro.ne.jp



振り返って29年

認定NPO法人 AIDSネットワーク横浜

理事長 笹田 克子

コロナ問題に翻弄されて2年近くになります。活動全てに制限が生じ、本来の電話相談等の活動、ミーティングも難しくなり問題の多い病気になすすべもなく、健康管理がマスク頼りとなり、全世界から発信されたウイルスの猛威は留まることなく我々の生活に入り込んできました。そんな中での、我々のエイズ・性感染症等の相談は、相談員の人数制限を守りながらの活動です。閉ざされた活動の中で悶々と悩み、耐え切れず去っていったメンバー、残って頑張り活動を続けてくれる29年の絆の人たち、人それぞれです。

今季に入り、コロナ問題もワクチン接種が高齢者から始まり、私も一回目を済ませたところです。29年+年齢を考え

ると、あせる気にもなります。まだまだ私たちの活動はやりきれてはいません。

日本の性教育は遅れています。ハーフタレントの多くの方たちがメディアを通じ発信しています。その話の内容は実に赤裸々でわかりやすく、テレビで聞いていても違和感なくうらやましいとさえ感じるものです。

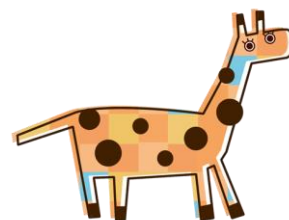
私たち「AIDSネットワーク横浜」は、電話相談と出前講座、ボランティア学校の3本立ての活動が主たるものです。中学3年生卒業前の講座では制約が多い中で、講師は学校側と打ち合わせを行い正しい知識を伝えるために苦心しています。子どもたちは、玉石混交のネット情報などから「そのくらいのこと知っ

ている！」と間違った情報を得ているかもしれない中で、科学や人権の視点で性を自分が生きていくうえで大切なものであると受け止める機会になるよう限られた時間で話しています。

エイズが不治の病として、我々の前にその姿を見せた1990年代を思い起こすと、今回のコロナ報道と違い、報道される内容は興味だけが先行する状況だったと記憶しています。少しでも確かな知識を入手したいとシンポジウムの梯子で

勉強に行ったことを思い出します。そして、1993年に組織を立ち上げました。医学の力は日進月歩ですが、現在年間1500人ほどがHIV/AIDSの感染報告がされています。正しい知識と責任があなたを守ります。HIVにはまだワクチンがありません。

〈総会後の感想から記す〉



定期総会報告 事務局長 堀尾 吉晴

HIV、AIDSについての話題性が減っています。その中で、最盛期には100人に迫る会員数を持った本会ですが、現在は20名を切っています。電話相談は横浜市の委嘱を受けて実施していますが、当番のやりくりで苦労し始めています。交通費のみ支給の本当のボランティア精神にお願いして動いているNPOです。少しでも手伝おうかなと思う方、募集中です。[メールで any@netpro.ne.jp](mailto:any@netpro.ne.jp) にお知らせください。

〈2020年度事業報告〉

新型コロナウイルスに振り回されながら、出来ることをやるに徹した1年間でした。

① 一般社会に対する教育、啓発活動

1. 第28期ボランティア学校開催は中止。(企画部)

相談員の養成、市民への啓発を目的とするAIDSボランティア学校は、緊急事態宣言と重なり、中止としました。

2. AIDS文化フォーラム in Yokohama 参加(企画部)

8月8日にオンライン形式での1日開催となりました。

ボランティア学校で企画していた、「瀬尾 緑」(横浜市大付属病院 S. W.)さんの講演を展開しました。全国から202人の聴講があり、内容、画像音声の明瞭さ共に好評でした。

3. 世界AIDSデー in Yokohama は中止 (企画部)

コロナ感染予防のため、主催者判断で中止となりました。

4. 出前講座講師派遣 (出前講座部)

今年度は、高等学校4校(7回講演、1500名)、中学校4校(5回講演、700名)で開催しました。感染予防対策下での開催で、リモート、オンライン、分割方式などさまざまな対策が行われましたが、それらに対応して展開することが出来ました。

学校の予防対策に応じながら、性の多様性、STI全般、避妊など、広い内容の要請に応えられ、講演後のアンケートでは好評であり、そのアンケートでの質問に対して、すぐに文書で回答をしていることも信頼につながっています。中学生には新たに作成した相談窓口のパンフレットも配布しました。

② 電話相談 (電話相談部)

HIV、STI、および性にかかわる悩み、不安をかかえる方に対して、相談の窓口となり、不安の解消、とるべき行動などを共に考える。また、HIV、AIDSなどの情報を求める方に対して、最新の正確な情報を提供する。それらを通して、HIVの感染者の拡大を抑制し、感染に対する非科学的な恐怖感を軽減し、感染者の人権が守られる

環境を作る。それらを目的に、横浜市委託事業として、毎週水曜日の18:00~21:00、土曜日の15:00~18:00に開設していますが、今年度は、新型コロナウイルスにより、4月初旬から6月初頭まで横浜AIDS市民活動センターが休館となり、その間は休止となりました。

相談件数は例年の3割強ほどに減少しました。相談回数の減もありますが、三密を避ける行動が定着し、不安行為が減ったことによるものと思われます。男性同性愛の方からの相談の比率が高くなっています。年齢層は20代が最も多く、女性からの相談が他団体の電話相談に比べて多く15%、神奈川県民は25%となっています。正しい知識が浸透していないこと、SNSの正誤とりまぜた情報に惑わされている状況が見られます。電話相談での匿名対話形式は、徒な不安感を解消し、ストレスを緩和するには最適な手段と言えます。

③ ニュースレターの発行、他団体との交流及び広報活動 (広報部)

新型コロナの影響で、ニュースレターは223~225号の3回の発行にとどまりました。ホームページにはニュースレターのアップを行いました。

昨年度の出前講座を終えて

中野久恵

令和2年度の出前講座の報告は事業報告の通りです。私は中学校4校を担当しました。2020年3月（令和元年度）は、全国一斉の休校と重なり講座当日に中止になった学校もありました。ここでは、2021年2月～3月に実施した報告です。

4校とも体育館での対面での講座となりました。生徒同士の間隔をあけて座る、また生徒数の多い学校は2回に分けて行うなどコロナ禍の中で工夫をしながらの実施となりました。

おもな内容など

学校と相談し、○性の多様性 ○思春期の発育・発達について（射精・月経）○性感染症（水の交換を含む）○関係性（デートDV）などのテーマを組み合わせて行っています。「水の交換」では8人のコップの水が全員、ピンク色に染まり、感染の広がりを生徒は実感できました。また、教員にセリフを演じてもらう「デートDV」のワークショップでは、“つきあうこと、関係性”について考える時間となりました。

教師や生徒の感想

〈生徒の感想〉

- ・女性のみなさんがどんなことを思っているか知れて良かった。射精をたくさんやってダメなことではないと知れて少しほっとした。（男子）
- ・性やからだのことを肯定的に受け止めることができた。（女子）

・性的なものを恥ずかしくないと思うことは自分にとってかなり難しいし、恥ずかしくないと思うこと自体、自分は恥ずかしいことだと思ってしまうから、考え方は変わらなかった。（男子）

・今回の話を聞いて自分や相手のこと、環境や場面を考えることの大切さがわかりました。まだ成長途中だからこそ、たくさん学んでこれから活かしていきたい。

・今日の講演で話してくれたことは、保健の授業で教えてもらったことより、広いことだと思いました。

・私は小さいころからスカートなどの女性らしい服装が嫌いで、ふだんでもジェンダーレスファッションといわれるものを着ています。はじめは変なのかなと思っていましたが、話を聞いて、改めて自分らしく生きようと思いました。（女子）

・みんな最初の方は具体的な言葉に笑っていたけど、最終的にはまじめに話を聞いていて、私を含めたみんな性は恥ずかしいことではないのだという認識がもてたということなのではないかと思った。まだまだ性についての偏見がある時代だから、こういう機会はとても貴重だし大切だと思う。周りの大人は教えてくれないから。（女子）

・今まで性行為のことは親とかにも相談できなかったし、友達の間では下ネタのようにはなしていたけど、人として大切なことだと改めて知り、自分をコントロールしようと思った。（男子）



若年女性を取り巻く現状～スティホームできない少女たち～

講師 NPO法人 BONDプロジェクト 橘 ジュン

BONDプロジェクトは、街頭やネットでパトロール（アウトリーチ）をしてハイリスクな若年女性とつながり、メール、LINE、電話や面談で相談に対応し、保護や同行支援等を行っている団体です。今回は、コロナ禍のもとで若年女性が置かれている状況についてお聞きしました。

BONDプロジェクトは、2006年に「VOICES MAGAZINE」を発行し、2009年NPOを設立。

活動の中心は、「聴く・伝える・つなげる」であるが、組織そのものが専門家とつながりあって相談・支援・一時保護・自立の援助と幅広い活動を展開されている。

聴く：ありのままの声を聴き表現できる場を作る。LINE相談、メール相談、電話相談、面接相談、bond@よこはま相談室、ネットパトロール、街頭パトロール、カフェ型移動相談。虐待や暴力を受けているとわかると家に帰せないでBONDで一時保護することもある。

伝える：女の子の声を知ってもらう。フリーペーパー「VOICES MAGAZINE」発行、講演会・啓発

活動、10代20代の女性を対象としたイベント、渋谷のラジオパーソナリティ「渋谷の漂流少女たち」に出演

つなげる：一人一人に見合った支援、おとなにつなぐ。弁護士と連携し、他の専門機関へつなぐ。一時保護、同行支援、中長期保護（自立生活支援）

具体的な活動のようすや子どもの実態

TwitterやYouTube、テレビ、新聞等で紹介され、広く「伝える」活動。

ネットパトロールや街頭パトロールなどにより見つける活動。また、動く相談室として電話相談、LINE・メール相談、面接相談、出張相談などにより、シェルターでの一時保護につなげている。そして、弁護士と連携し、医療機関や警察などへの同行支援を行っている。

18歳未満は、児童相談所へ18歳以上は女性相談センターや生活困窮自立支援窓口につなげる。家にも帰れず公的機関にもつながらない場合、「ボンドのイエ」で中長期的保護（自立生活支援）を行っている。

「bond Project@かながわ」は、10代20代の女の子のため

のカフェ型相談室が開設されている。毎週水・日曜日 13:00~19:00

・カフェ型の居場所：オープン時間内で面談、電話、LINE、メール相談の対応。「相談」することのハードルが高く、相談窓口にたどり着けない。困難を抱えていても「今」は相談することまで望んでいない。

・街頭パトロール、声掛け：横浜、川崎、関内駅周辺。相談カードの手渡し。

シェルターでの緊急一時保護：弁護士、児相との連携。

同行支援：児童相談所、福祉事務所、病院、警察、役所、ハローワーク、各種手続き等

10代20代の女の子のための自立準備のための家として「ボンドのイエ」があります。これは、公的支援につながらない、制度にたどり着けない場合の家です。

子どもたちは、「行く場所がない、お金がない、自立準備のための拠点が無い」ため、「居場所はネットカフェ、講演、SNSで知り合った男性宅、カラオケ、ネットカフェ」というような背景があります。

「ボンドのイエ」で提供するものは、①安心できる生活、②生活習慣の獲得（料理・洗濯・そうじ・お風呂の入り方・食べ方）③心のケア（スタッフとの会話・面談、臨床心理士によるカウンセリング・共同生活者との関係づくり）④つながりを増やす（必要に応じて他の支

援機関や自助グループなどの紹介）⑤自立へのサポート（仕事を探す、自立までの計画を一緒に立てる、家探しなど自立準備の保護）と幅広くされている。生育歴の中で生活習慣を獲得できなかったという現実に関心する。

「緊急事態宣言」が発令され・・・

2020年4月の新型コロナウイルス感染拡大に伴う「緊急事態宣言」が発令され、外出自粛・休業要請により「ステイホーム」の掛け声のもと、多くの人が自宅で過ごすことを余儀なくされた。

BOND プロジェクトにも「コロナで・・・」という相談が増えていった。家が安全ではない、安心できる場所ではないという状況の子どもからの相談も多く届いた。このような状況下で遠方に住む子どもに会いに行くことが困難になり緊急調査を実施した。アンケート結果から、①家族・おうちのこと②体・心のこと③ネット、SNS④お金、暮らしのこと⑤学校のこと⑥望まない妊娠などたくさんの困った声が寄せられた。この結果、BOND プロジェクトでは、オンライン面談の定期的な開催やネットパトロールの強化を行っている。このような活動は行政でフォローできていない面を支えている。資金面はどう工面されているのか知りたいところでした。

H I V / A I D S のイメージをUPDATEしよう！

認定NPO法人ぷれいす東京 代表 生島 嗣さん

ぷれいす東京は、予防啓発、直行支援、研究／研修を行っている。

生島さんから、歴史・日本・世界・現在と豊富な資料が提示され講話が進んだ。一部の内容についてお伝えします。

現在の事例から

10代のゲイ男性からの電話相談。去年くらいから体調不良が続いてHIVのことが不安で病院に行きHIV検査を受けたら、確認検査が必要になり怖くなって、検査結果を聞きに行けない。来月から専門学校に行く予定になっていて陽性だったら学校に行っている間に発症したらどうしようと不安。父親の健康保険に入っているが、ゲイであることを伝えていないので相談しにくい。どうしたら？というもの。

この事例からもわかるように検査を受けても結果を受け止めることへのハードルの高さ、ゲイであることを家族に伝えられない悩みなどHIVの持つ社会的な問題が示された。

アンケート調査から

MSMを対象としたGPS機能つき出会い系アプリに国内限定で広告を出し、同意を得た利用者にアンケートを実施した「LASH調査」の詳細な報告があった。一部を紹介する。

・HIV検査を1回も受けたことがない人。

16～19歳：80.1%

20～24歳：56.8%

25～29歳：51.5%

・何らかの薬物を使用開始した年齢
(使用者のうち)

10歳未満：0.2%

10～15歳：2.8%

16～19歳：17.8%

20～24歳：37.5%

25～29歳：22.8%

・悩みやストレスがありますか？

16～19歳：88.2%があると回答

HIV感染・感染リスクを低減するための 予防戦略の有効性

・HIVを治療する薬を使う（ART）

・HIVを予防する薬を使う（PrEP）

・コンドームを使う

・リスクの低いセックスだけをする

・同じHIVのステータスのパートナーだけを持つ

・セックスをしない

すべての方法で効果的にリスクを減らすことができる。戦略を組み合わせれば、さらに効果的な場合もある。

現在・・・H I V陽性者への支援とその背景

U = U（検出限界以下は感染しない）

検出限界以下の状況が6カ月続くと、H I Vは感染しない。H I V陽性のパートナーのH I Vウイルス量が抑制されていれば、カップルはコンドームを使わずにセックス、P r E Pもしていないというケースでも、遺伝子的なつながりのある感染は認められなかった。

しかし、S T Iは感染する。U = Uでも予防は必要。性感染症、梅毒、A、B、C型肝炎などが存在する。

日本の陽性者の現状

2～3カ月に1回の通院。一日1回の内服が91.5%。

現在は、治療の開始はなるべく早くとなっている。

〈2021年5月23日（日）人間と性教育研究協議会主催のオンライン講座より。中野久恵〉

お知らせ

2020年度、当団体へご寄付をいただいた方

いただいたご寄付は、A N Yのさまざまな活動に活用させていただいています。ここにお名前を掲載し、感謝申し上げます。

岡安敬夫様 直喜屋様 清治ヒロ様
株式会社 笹田組様 ステイト工業（株）様 小林正二様 北原美智子様
市川由美子様 （有）まるこ家具店様 横浜商工会議所様
（株）大和 代取 佐藤正道様 望月建材（株）代取 望月明様 伴整形外科様

☆ 会員の皆さまへ 2021年度 会費納入のお願い・・・同封の振込用紙をお願いします。

払い込み先：ゆうちょ銀行

加入者名：ANO法人A I D Sネットワーク横浜

口座記号番号：00230-1-135371

会費：一般会員 6000円 学生会員：3000円 賛助会員：5000円

〈情報〉

第29期ボランティア学校の予定

現在、企画中です。詳細が決定したらお知らせします。

期間は、9月～10月にかけて行う予定です。

A I D S文化フォーラム

8月6日～8日まで開催の予定です。詳細は未定です。

